

先端医療開発センター

基礎研究から実用化へ 鹿児島大が設置 産業創出目指す / 鹿児島

毎日新聞 2019年1月16日 地方版

鹿児島大は15日、学内の研究で生まれた医薬品や医療機器、再生医療などの先進技術を速やかに実用化するための開発拠点「南九州先端医療開発センター」を設置したと発表した。これまで研究者自身がやっていた特許取得や産学連携などの実務もバックアップする。将来的にはバイオ創薬分野などでの起業や産業創出も目指す。

センターは同大大学院医歯学総合研究科の附属施設。ある程度実用化のめどが立った研究について「先端医療開発プロジェクト部門」で開発を進め、企業や海外機関との連携を担う「実用化部門」など4部門が支援する。同研究科の小賤（こさい）健一郎教授がセンター長を務め、2020年度に設備が完成する。

15日に記者会見した前田芳実学長は「医療分野の研究開発には専門的知見に基づく支援が必要。研究成果を社会還元できれば波及効果は大きいので、センター設置が鹿児島大の地域貢献を進める契機にしたい」と話した。

小賤センター長も「基礎研究から実用化まで一体的に進められる組織ができることに意義がある。将来的にバイオベンチャー設立などにつながれば、更に大きな社会的意義が生まれる」と期待を込めた。【菅野蘭】